

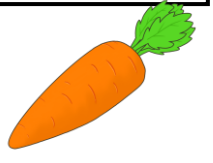
# 大中PRIDE



大津町立大津中学校  
生徒指導通信 1号

令和5年4月14日(金)  
文責：岡村 康平

## 「ママ、にんじん食べたくない」



159名の1年生の皆さん、御入学おめでとうございます。入学式を終え、今週から授業が始まりましたが、どのような気持ちですか。中学校は小学校とは違う新たな要求があるかもしれません。具体的には「しなくないことだけれども、やらなければならないこと」逆に「したいことだけれども、我慢しなければならないこと、身につけなければならないこと」です。今後、2・3年生の先輩たちが「大中学生としてのお手本を示してくれる」ので、しっかりと先輩達の姿を見てほしいと思います。

さて、中学校では「何を」学ぶと思いますか。中学校は、将来皆さんがどんな道を進んでも、頑張っていけるための大事な「態度やスキル（勉強や生き方）」を学ぶ場所であると思います。「自分は明日から社会に出ても大丈夫」という人はおそろくないと思います。「自分で率先して何事にも取り組む」という「自力」も大切だと思いますが、中学校は「他力」も大事です。つまり、仲間と協力して様々なことに取り組んだり、先輩や先生から多くのことを学んだりすることなどです。

だからこそ、周りの方から「教えてあげたい」「応援してあげたい」と思われるような人になることは、自分自身が成長していく上で、とても必要なことであると考えます。そして、教えてもらったことを謙虚に受け止め、『心の中にしまっておく』必要があると思います。入学してすぐは、みんなとても「素直」で、色々な方からのアドバイスを受け入れることができます。ところが、人は慣れてくると素直でなくなったり、人の話を聞かなくなったりしてしまいます。そうなってしまうと何も学ばないまま、中学校を卒業してってしまうのです。

庭の手入れをしないと「雑草」が生えてくることと同じように、心もいつも「手入れ」をしないと、素直ではなくなり「雑草」が生えてくるかもしれません。「手入れ」をするということを言い換えると、いつも素直になる訓練をし続けることだと思います。

大津中学校では「傾聴・挨拶・時間・掃除」という「大中ブランド」と呼ばれるものがあります。「傾聴」は自分の心を開いて、相手の話をしっかりと聞くこと。「挨拶」は相手より先に笑顔で気持ちの良い挨拶をすること。「時間」は時計を見て行動し、しっかりと時間を守ること。「掃除」は毎日使っている学び舎に対し、感謝の気持ちを持ちながら黙々と掃除をすること。

これらのことを守り続けるのは簡単なことではないかもしれませんが、しかし、しっかりと守り続けた人は中学校生活3年間で人としての成長を感じられるはずで、そういう人たちが「応援される人」になるのではないのでしょうか。

話は変わりますが、今年のお正月に晩ご飯を食べていたときの出来事です。3歳の姪っ子の箸が止まったので、義理の姉が食べるように促すと「ママ、ニンジン食べたくない。」と一言。そこで、義理の姉が「ニンジンにはね、体を大きくしてくれる栄養が一杯入っているよ。一緒頑張って食べよう。」と理由と励ましを添えました。私の中では「これで食べてくれるだろう」と思いましたが、姪っ子の口からは「ニンジン、嫌いだから、食べない。」と返答。

このような経験を通して感じたことは、

『幼い子どもの判断や選択は「したい・したくない」「好き・嫌い」である』ということでした。

この判断や選択は、姪っ子の年齢を考えれば仕方ないことかもしれません。大人はこのような判断や選択を「子育て」という期間を通して、変えていく必要や役割を担っているのかもしれません。しかし、大人だけで、つまり「他力」で変えていくには限界があると思います。あなたたちのように『中学生』という時期になれば、この判断を「自力（自分の力）」で変えていく必要があるように思います。

『したい・したくない』『好き・嫌い』の判断を

『したいけれども、全体のことを考えて我慢しなければならない』

『あのことをすることは嫌い。だけれども、全体のことを考えて我慢しなければならない』

すべてに対して我慢する必要はないと思います。しかし、全体に対する影響や今後の自分自身の成長のために、この判断力を持ってほしいと思います。大中学生であるあなたたちならできると信じています。

中学校生活を通して、1つでも自分の引き出し（判断・選択肢）を増やして卒業してほしいです。